

令和6年度 石和西小学校経営の方針

【校訓】 かしこく なかよく たくましく

1 はじめに

学校経営は、校長のマネジメントの下、「学校教育目標の実現を目指し、全教職員が組織的な教育活動を展開し、子どもたちを取り巻く環境や、能力等実態を的確に把握する中で現状にとどまることなく、更なる向上・前進を目指して行う組織的・創造的営み」である。

学校教育目標の具現化に向けては、学習指導要領、山梨県教育大綱、山梨県教育振興基本計画、山梨県学校教育指導重点、さらには笛吹市学校教育ビジョンを踏まえ、基本理念である「生きる力」を育む学校教育を推進するために、特色ある教育課程を編成し、「確かな学力の育成」「豊かな心の教育」「健やかな体の育成」の知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指して、全教職員が常に学校教育目標を念頭におきながら、日々の教育活動を行っていくことが重要である。



2 学校教育目標

「学び合い、励まし合い、高め合う 児童の育成」

——【目指す学校像】——

- ・しつとりと落ち着いた学校
- ・子どもが登校したくなる学校
- ・花と緑に囲まれた安全で安らぎのある学校

——【目指す子ども像】——

- ・あいさつ・聞き方・言葉遣いの身についた子ども
- ・我慢し、折り合い、許し合える子ども
- ・当たり前のことを当たり前にする子ども
- ・読書好きな子ども

——【目指す教師像】——

- ・子どもを理解し、子どもに愛をつくる教師
- ・教育的瞬間を見逃さず、子どもと共に喜び合える教師
- ・専門性や人間性を高め合える教師集団

3 学校経営の基本方針

■ 【かしこく】確かな学力を身につけた児童の育成

これからの時代に求められる子どもたちに育成すべき資質能力である「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」を、教育課程全体を通じて推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。

■ 【なかよく】豊かな感性をもち、思いやりの心をもつ児童の育成

教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要としての「特別の教科 道徳」の役割を認識し、道徳的価値に関する知識・理解だけでなく、全人格にかかわる道徳性の育成を図る。

安心して生活できる教室環境や協働的・創造的な学習環境づくりに努めるとともに、子どもたちの確かな人権感覚や自他を尊重する態度の育成を図る。

■ 【たくましく】生命を尊重し、進んで心身を鍛える児童の育成

健康で安全な生活とスポーツライフの実現を目指し、食育、体力の向上に関する指導、安全に関する指導、心身の健康保持増進に関する指導を、体育科、教育活動全体を通じて行うことにより、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。

4 具体的目標と努力点 ◎は今年度の重点

(1) 社会の変化に対応し、「生きる力」を育む教育課程の編成と実施に努める。

- 学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を明確にする。
- 学校教育目標や学校経営の基本方針を家庭や地域とも共有されるよう努める。
- 地域や学校、児童の実態に即し、活力に満ちた特色ある学校づくりに努める。
- ◎各教科等や総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習、プログラミング教育などの充実に努める。
- ◎地域人材、外部講師等の積極的な活用を図り、環境教育・福祉教育・国際理解教育・情報教育の推進に努める。
- キャリア・パスポートの効果的な活用を図り、学校教育全体をとおして系統的・体系的な「キャリア教育」の推進に努める。

(2) 自ら学び・自ら考える力を育てる学習指導に努める。

- ◎学習指導要領の趣旨を踏まえた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善に努める。
- ◎各教科等の目標を実現するために、1人1台端末等のICT環境を最大限に生かした授業の充実を図る。(笛吹市GIGAスクール運用ガイドライン)
- 教師がファシリテーターとしての役割を意識し、「問いのデザイン」、「板書のデザイン」を取り入れた授業づくりに努める。
- 児童の学習状況に応じた個別指導の充実を図り、基礎的・基本的な学習内容の定着とそれらを活用して課題を解決する力の育成に努める。⇒【西小タイム、少人数指導、放課後子ども教室連携】
- ◎学力調査の結果分析を通して、一人一人の学習のつまずきの解消、授業における指導方法や学習環境の改善を図る。⇒【全国学力学習状況調査結果の活用】
- 学校図書館の計画的・効果的な活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実に努める
- ◎朝の読書、読み聞かせ、家読等、読書活動の積極的な推進を図り、児童の読書習慣の形成、国語力の向上に努める。

(3) 豊かな人間性や社会性の育成を目指し、心の教育の充実に努める。

- ◎楽しく学び合える魅力ある学校づくりを進め不登校の未然防止に努めるとともに、児童の実態や家庭環境、友人関係の変化を捉え、SCによるカウンセリングや関係機関と連携により、児童一人一人に応じたきめ細かな不登校支援を行う。
- 「特別の教科 道徳」の目標や内容を踏まえ、答えが一つではない道徳的な課題を、児童一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」への転換を図り、道徳的実践力の育成に努める。
- 様々な体験活動を、発達段階を考慮した創意工夫ある指導により、豊かな心や思いやりの心を育成する。⇒【米づくり体験、福祉体験等】
- ◎「自分らしさ」を大切にできるように、子どもの人格を尊重し、子どもを勇気づける声かけ、受容と共感的理解に基づくきめ細かな生徒指導に徹する。
- 「あいさつ、聞き方、言葉遣い」、「くつそろえ」の徹底を図り、基本的な生活習慣、学習習慣の確立とともに、規範意識や責任感、自分を振り返る態度の育成を図る。
- ◎学級力向上プロジェクト、異年齢集団での系列活動等、課題解決に向けた子どもたちの主体的な取組により、互いに認め合い、励まし合い、高め合う集団づくりに努める。
- 人権教育の充実を図り、いじめ、暴力行為、児童虐待等の早期発見、早期対応に努めるとともに、関係機関との連携を図りながら根絶に向けた取組を進める。
- ◎情報モラルに関する指導(携帯電話・スマートフォンの取り扱い)を、保護者と共に展開していく。

(4) 健やかな体の育成を目指し、体力づくり、健康・安全教育に努める。

- 自他の生命を尊重する意識を育成する。⇒【花・野菜・米等の栽培活動、ビオトープ】
- ◎望ましい生活習慣の形成に向けて、子どもが自らの生活を見直し、改善していこうとする態度を育てるとともに、家庭への啓発活動を進める。→生活習慣調査の実施
- 教育活動全体を通じて体験的活動の充実を図り、何事にも全力で取り組み、最後までやりぬく心、嫌なことから逃げない、乗り越えていくたくましさを育成する。
- ◎体力テストの結果を分析し、体力（持久力・投力）の向上に向け、西小元気アップ、異年齢集団による外遊び等の取組を推進する。⇒【健康・体力づくり一校一実践運動】
- 石和給食センターとの連携により、食に関する指導の推進及び充実、食物アレルギーへの対応の徹底を図る。
- 安全点検、安全な遊具の使い方の徹底、危険予測及び回避能力の育成等、安全教育の充実に努める。
- ◎感染症対策を徹底し、日常生活での感染予防の実践と習慣化を図り、感染防止に万全を期して取り組む。

(5) 教師力の向上

- 児童一人ひとりのよさや可能性を伸ばす研究と修養を推進し、教師としての指導力の向上に努める。
- 指導上の課題、指導方針を全職員が共有、連携協力して解決に当たる体制を整備する。
- ◎日常の実践、研修の中で学びの生まれる組織づくりを進め、教員の同僚性、協働性を高め、校内研修の活性化を図り、目指す子ども像の実現を目指す。
- ◎1人1台端末等のICT環境を最大限に生かした授業の充実を校内研修の柱に据えて、ICT活用指導力の向上に努める。
- ◎一人一実践（公開授業研究）を通して、授業力・教師力の向上を図る。
⇒【やまなしスタンダード「授業づくりの7つの視点」】

(6) 学校・家庭（保護者）・地域との連携を図り、開かれた学校を目指す。

- ◎「家庭学習の手引き」の配付、活用により、保護者の理解を促し、連携協力しながら家庭学習の習慣化、自主学習の定着を推進する。
- ◎積極的な授業・学校公開、各種便りの発行により、情報を発信するとともに、教育活動の目的や成果、課題を共有しながら教育活動の改善に努める。
- 学校評価を実施し、教職員による自己評価及び保護者、学校評議員等、学校関係者評価の活用により、学校経営・運営の課題把握と改善に生かす。
- PTA活動の推進により、保護者との連携・協力を深め、教育環境の改善、充実を図る。
- 読み聞かせボランティア、学習支援ボランティア、地域安全ボランティア、福祉ボランティア等の協力を要請し、生活環境や学習環境を整備する。